

水源の森再生PJ #3

～山の観察力を身に着ける～

2021年12月4日(土)～5(日) 参加者48名

◆講座の目的と概要◆

「自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる」

本講座は、環境改善の技術を学ぶだけではなく、「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけ、日本各地で環境再生を指導する方を養成していきます。2021年6月から始まり複数回、同じ現場で活動しその変化を体感しながら学びます。基本となる、山の土中環境を傷めず育む作法は、毎回の活動中にお伝えしていきます。

◆山の観察力を身に着ける◆

本講座の目標は、「土地を読めるようになる」ことです。

第1回「道づくりとボサ置き」、第2回「石積み」で実践した作業地の、その後の様子を観察します。うまく改善のできたところ、そうでなかったところ、それぞれに必要な造作を考え、修繕しながら改善できる力を養います。前回2度の講座で学んだ造作をさらに進め、翌年春の講座で予定している広葉樹の植樹に向けて、下準備を行いました。

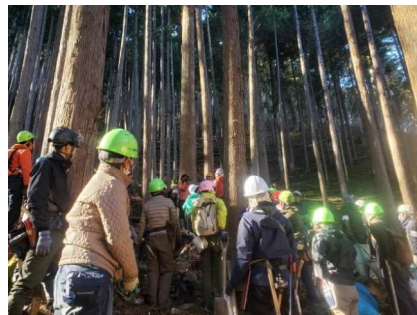


▼水が土中染み込むような地面に

急斜面の作業道も、枝そだや落ち葉でつくる苗木のマウンドも、表面を水が走らず大地に染み込むよう、水平な面に段切りします。地形を観察し、どこに何を施すとよくなるか考えることが重要です。

▼石積みは究極の砂防ダム

わさび田から畑まで斜面のいたるところに施されている石積みは、古来からの積み重ねで治山治水の効果を発揮し、山を安定させてきました。落ち葉と炭とともに石を積むことで、谷筋を守り、水と空気の流れる地面にします。



講師・『土中環境』著者
高田 宏臣氏



◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術などは、高田宏臣氏著『土中環境』や、NPO法人地球守発行の「地球守の自然読本」に紹介されています。

☆お問合せ 源流大学 ☎ 0428-87-7055

✉ info@npokosuge.jp